

群馬県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表(令和5年度版)

(様式)

羅 針 盤			関係する 分掌等	方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己 評価	外部アン ケート等				
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	○ 学校からのおたよりや連絡帳等から「学校の様子がよく分かる」と80%以上の保護者が答えている。	小学部主事 中学部主事 事務部	○ 各種通信(学校・学部・学級)、各種便り(保健・進路)、学校ホームページ等で学校の様子を発信したり、連絡帳、電話、SNS等で保護者と丁寧なやりとりを行ったりする。	A	A	A	○ 回答のあったアンケートでは学校の様子が「よく分かる」「だいたいよく分かる」が99%を占めた。SNSの活用も浸透しつつある。	○ 保護者の意見を学校へ伝えることができるということも発信してほしい。	○ SNSの活用が広がる中で、セキュリティ面についても意識を高め、より一層、丁寧かつ迅速に情報発信していく。
		○ 80%以上の保護者が学校行事やPTA活動等に参加している。	渉外部 PTA係	○ 各種委員会で保護者の意見を吸い上げ、学校行事やPTA活動等への参加の仕方や日程・時間等の改善を行う。	A	A	A	○ 80パーセント以上の保護者が学校行事やPTA活動に参加していると回答している。学校行事が復活し始め、各専門部での活動も行われた。	○ 緊密な連携が図れるとよい。	○ PTA活動への参加が少ない学年もあり、活動内容や方法について周知していくことや回数の見直しをしていく。
		○ 「個別の教育支援計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて計画を作成するために、教師が保護者のニーズや心情に寄り添う支援を行い、80%の保護者から有用であると評価を得ている。	学習指導部 学習指導係	○ 「個別の教育支援計画」の立案に当たって、教育相談や連絡ノートでのやりとり等を通じて、保護者の思いや意見を丁寧に汲み取り作成する。また、修正をする場合には、学年・学部で十分に検討を行い、保護者との共通理解を図る。	A	A	A	○ 100%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。教育相談や連絡ノート等でのやりとりを通じて、保護者のニーズや心情に寄り添い、保護者との共通理解に基づいた支援内容を設定して取り組むことができた。		○ 引き続き、保護者と丁寧に情報交換や共有ができるようにする。また、学校、保護者、関係機関が連携しながら支援を行えるように、必要に応じて個別の教育支援計画の情報を関係機関と共有することを周知していく。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○ 地域の幼保小中学校や保護者に対する相談を、年間250件以上受けている。	地域支援部 エリアサポート係	○ 保健師や心理士等専門家と連携して対応し、的確な実態把握に基づいて、お子さんや先生方のニーズに添った支援方法を提案する。	A		A	○ 12月末時点で250件を超える相談に対応した。今年度は外部専門家派遣も活用し、理学療法士等とも連携することで、専門的な視点からの実態把握や支援方法の提案につながった。		○ 次年度も関係機関と連携しながら相談対応していく。小学校からの転校に関する就学相談にあたっては、小学校とも連携しながら対応することが必要である。
		○ 地域の幼保小中学校への情報発信として、地域支援だよりを学期に1回以上発行している。	地域支援部 エリアサポート係	○ 訪問相談等の機会を通して、幼保小中学校の課題を把握し、地域のニーズに添った情報提供ができるようにする。	A		A	○ 年度初め見られる子どもの様子について掲載したり、多くの園で話題になった内容を掲載したりした。発行は学期に1回行った。		○ 相談が立て込んでいる時期は発行が難しい。前年度の相談内容から、園や学校に共通した課題を確認しておき、発行時期や内容について計画的に進めていくことが必要である。
		○ 居住他校交流について、希望する保護者の80%以上が子どもにとって有用であると感じている。	渉外部 交流係	○ 相手校と事前に情報交換をし、交流のポイントについて十分な打ち合わせをもとに実施し、その成果等を保護者を含め共有する。	A	A	A	○ 居住他校交流を実施した約97%の保護者が、同年代の友達を知ったり地域とのつながりをもったりできたかという質問に「できた」「だいたいできた」と回答した。		○ 相手校の担当者や連携し、児童生徒にとって有意義な交流となるような活動内容を設定する。交流後に相手校や保護者と振り返りを行い、次回交流へ生かす。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導を行っていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○ 個別の指導計画の立案・評価について、児童生徒の実態に応じた指導を実践できるよう、学年・学部での共通理解と検討を年3回行っている。	学習指導部 学習指導係	○ 適切な実態把握をもとに、学年・学部での共通理解を図り、前期・後期の目標や評価が適切かどうか(見直しをもとに、「わかった」「できた」が実感できる授業等)検討を行う。	A	A	A	○ 100%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。学年や学部間で共通理解を図り、検討を重ねながら個別の指導計画の立案や評価ができた。	○ 小学部で身に付けたことが中学部になってもよく定着しており、感謝している。	○ 適切な実態把握や目標設定、評価が行えるように、引き続き、学年や学部間で検討や見直しを行い、学習状況に応じた授業改善を図っていくようにする。
		○ 目標を達成するための手立ての1つとして、授業や学校生活において、個に応じたICT教材の活用をしていると80%以上の教師が答えている。	研修部 校内研修係	○ 校内での活用方法や実践事例・教材の情報共有を行う。	A		A	○ 教員のICT機器活用のための研修を行うとともに、児童生徒の学習状況やニーズに応じて、学習をより効果的にするためのICT教材の活用の仕方について検討した。		○ 校内研修を活用し、各教員のICT活用スキルや実践力のより一層の向上を図る。また、児童生徒がICT機器を活用し、学習を進めていく機会を確保していく。
		○ 児童生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業を実践し、「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	学習指導部 学習指導係	○ 適切な実態把握をもとに、指導内容や目標を設定する。また、児童生徒の学習状況をもとに指導内容や手立て等について見直し、授業改善を図る。	B	A	A	○ 約99%の保護者が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。実態に応じた指導内容や手立て等の工夫で授業を行い、個別の指導計画の目標を概ね達成することができた。		○ 指導と評価をつなげた授業づくりや授業改善をいっそう図っていくようにする。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○ 日々の学校生活における健康に関する配慮や対応について、80%以上の保護者が適切に行われていると回答している。	保健部 保健係	○ 怪我や体調不良等への対応、保護者への報告については養護教諭や管理職と確認の上、行うようにする。 ○ 「連絡ノート」で体調面について保護者と情報交換したり、「ほけんだより」等を活用し、健康管理、感染症等に関する情報を保護者と共有したりすることで健康への意識の向上を図る。	A	A	A	○ 保護者アンケートの結果では「そう思う」が73%、「だいたいそう思う」が27%であった。学校として首から上のケガについては保護者に報告することや、児童生徒の健康に対することへの対応について担任の独断ではなく養護教諭や管理職と相談することの徹底ができていと言える。	○ 学校看護師を雇用できていてよい。更に人数を増やすなど、子どもたちの安全が守られるよう、よりよい環境作り尽力してほしい。	○ 今後も児童生徒の健康管理について、養護教諭や管理職との相談を学校として徹底していくことや、連絡ノートを含む保護者へのきめ細かい配慮ができようとしていく。
		○ 引き渡し訓練では、引き渡しマニュアルにもとづいた確実な引き渡し方法について、学校と保護者で共通理解を図り、実施することができている。	安全部 防災係	○ 引き渡しカードの作成及び更新等を通して、保護者に周知を図るとともに、職員会議等で職員に周知を図る。	A	A	A	○ アンケートの結果より、訓練に参加した人で、手順の理解が「できた」「だいたいできた」と回答した人は、保護者が98%、職員が100%だった。		○ 訓練を繰り返すことで、手順等を理解してもらい、職員には、映像なども活用し共通理解を図る。今後の工事の影響で、実施方法が変更になる。状況に応じて対応する必要がある。
		○ 避難訓練、消火栓の研修、不審者対策の研修を計画し、訓練や研修を通して、90%以上の職員が児童生徒の避難誘導など各自の役割を理解している。	安全部 防災係	○ PDCAサイクルを機能させた避難訓練を実施し、児童生徒の実態に即した訓練の充実を図る。職員一人一人が危機管理意識を持てるよう、訓練後のアンケートを実施する。	A	A	A	○ 職員アンケートの結果より「できた」「だいたいできた」の回答が100%だった。		○ 避難訓練を重ね、明らかになった課題に対応し、計画に反映させていく。不測の事態に対応できるよう、職員一人一人の意識を高められるようにする。
		○ 救急搬送訓練や心肺蘇生法等の訓練を年間で各1回以上実施している。	保健部 保健係	○ 救急搬送マニュアルを見直し、搬送までの手順を分かりやすくしたり、実施後の話し合い等を充実させ、改善点を共有できるように働きかけたりする。	A	A	A	○ 職員アンケートの結果、95%以上の救急搬送訓練や改善点の共有について「できた」「だいたいできた」と回答している。		○ 緊急搬送訓練の実施方法やよりよい手段について常に見直しを行い、児童生徒の安全につながるようしていく。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 いじめのない学校作りに取り組んでいますか。	○ 保護者の90%以上が、学校はいじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組んでいると答えている。	生徒指導部 生徒指導係	○ 年度当初の児童生徒紹介を始め、隔月ごとのいじめ対策委員会で各学年の様子を報告し、情報の共有を図る。児童生徒の人権を尊重し、自己有用感を高める支援を行うことで、児童生徒の心理的安定を図り、いじめを防ぐ。	A	A	A	○ 第1回アンケート結果は、「そう思う」51.7%、「だいたいそう思う」41.5%で、計93.2%。第2回アンケート結果は、「そう思う」51.2%、「だいたいそう思う」45.3%で、計96.5%だった。		○ いじめ対策委員会で情報共有しながら、児童生徒のいじめの早期発見・対応・解決を図り、法に基づく組織的な対応を徹底する。 ○ いじめ防止対策推進法や生徒指導要改定に関する情報など、職員への周知を図る。保護者へは、いじめ対策について情報発信する。
		○ キャリアパスポートを前期、後期で2回作成している。また、キャリア教育通信を年3回発行している。	進路指導部 キャリア教育係	○ キャリアパスポートを前期、後期で2回作成し、指導内容を整理しながら個に応じた系統的なキャリア教育を行う。また、キャリア教育通信を年3回発行し、保護者に本校のキャリア教育を周知し、理解と協力を得られるようにする。	B	B	B	○ アンケート結果では、「そう思う」と答えた保護者が52.8%、「だいたいそう思う」と答えた保護者が43.8%で、計96.6%。職員では「そう思う」が22.9%、「だいたいそう思う」が68.8%で計91.7%。「あまりそう思わない」が8.3%であった。	○ 伊勢崎市で企画している障害者就労支援事業の合同販売会などにも是非参加してほしい。	○ 本校でのキャリア教育の取り組みがさらに充実するよう、キャリアパスポートを各学期に1回、計3回作成し、家庭配布を検討している。また、進路通信やキャリア教育通信に本校でのキャリア教育の取り組みについて、写真等を掲載することで、さらに保護者に周知していく必要がある。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○ 進路指導に関する行事を年5回以上実施している。	進路指導部 進路指導係 キャリア教育係	○ 実際の事業所における現場実習、外部講師による進路選択の関心を高める授業や保護者向けの講演会、本人と保護者と担任による進路相談会等を行う。	A	A	A	○ アンケート結果では、進路情報が参考になっている「なっている」と答えた保護者が53.9%、「だいたいなっている」と答えた保護者が41.6%で、計95.5%であった。		○ 現場実習や校内実習を行った。校内研修や外部講師による講演会などを行った。中3生対象の進路学習や、中1、2年対象の進路相談会も実施した。
		○ 本校保護者及び地域の関係者に向けての情報発信として、「進路だより」を年5回以上発行している。	進路指導部 キャリア教育係	○ 校内の進路指導の様子や受検に係わる情報、地域の協議会等で得た情報や動向に関する情報の発信を行う。	A	A	A	○ 本校保護者及び地域の関係者に向けての情報発信として、「進路だより」を発行した。地域の協議会や説明会などでの情報を取り入れた。		○ 進路指導の情報では、定期的に情報発信をすることができているが、内容の精選や工夫も行う。協議会などからの情報発信は、ワークフェスタなどを通じて改善できた。